

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200941		
法人名	株式会社 桜梅桃李		
事業所名	グループホームパラソル 倉敷中庄		
所在地	倉敷市中庄2371-1		
自己評価作成日	H. 30. 3. 6	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に畑があり、四季折々に野菜を育てています。昔の経験を活かし楽しそうに生き生きと作業され、職員も色々と勉強させていただいています。収穫した野菜は入居者様と一緒に調理法を考え、下ごしらえ等手伝って頂き、楽しいひと時となっております。個々のできる事を活かし、役割を持っていただいたり楽しみを増やす努力をしています。表情豊かに暮らして頂けるよう、お一人おひとりに合わせた作業、運動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大通りから一本奥に入った場所にあり、日当たりの良い庭の家庭菜園は入居者の愉しみの一つになっています。建物は木の温もりが温かさを感じさせ、静かで落ち着いた雰囲気ของกลุ่มホームです。「住み慣れた地域で暮らし続けられるために」の思いを掲げ安全と安心を大切にされた支援に努めています。食事は管理栄養士の献立をもとに毎食手作りし、家庭菜園で収穫した野菜は、入居者と調理法を考え一品に加えられたりと、楽しみながら支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの人生を過ごされた方々の経緯を尊重し、尊敬の念を図りながら、個々のニーズに沿った支援を行うことにより、日々充実した生活の提供と理念の周知を実施	「入居者の今までの生活が事業所でも活かせるように」を念頭に置き、それぞれに合った支援ができるよう、尊敬と笑顔を大切に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、散歩やドライブ時には地域の方への声掛けを行って、交流に努めている。	地域の運動会に参加できる入居者と一緒に参加するなど、積極的に交流を図るよう努めています。	今後も地域とのつながりを大切にしながら、災害時、緊急時等に助け合える関係作りに取り組みされる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた地域の方や家族の方の思いを聞かせて頂き、思いに寄り添えるような助言を出来る限りさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、そこで出たアドバイスや意見を議事録で職員に報告しサービス向上に活かしている。	参加が難しい方にも、毎回参加を促しています。地域包括支援センターや家族からもアドバイスや意見を得ながらサービス向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方へ不明な点、判断できない事は相談させて頂き、必要であれば訪問、又は来訪して頂いて問題解決に努めている。	市町村担当者が運営推進会議にも参加しており、普段から相談しやすい関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議・カンファレンス時には何が拘束なのかスタッフ間で共有し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については離設に繋がらないように散歩ドライブで気分転換を図っている。	現在、身体拘束とは無縁の入居者ですが拘束について、地域包括支援センターの方から情報を聞いたりしながら、正しい理解に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	異常が発見された場合は、原因を究明している結果について職員全体に報告し、指導を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者の方がいる為、実際に入居者の方と関わりを持ちながら制度を学んでいる。又、ユニット会議・カンファレンス時にスタッフ間で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には必ず分かり易い言葉で十分な説明を納得するまで行い、不安や疑問点を無くすように努めている。分からない事等あれば随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等の意見・要望については申し送りノートに記載し、職員間で共通理解を図り運営に反映している。運営推進会議では家族の方に自由に意見を述べて頂いており、又、玄関にご意見BOXを設置している。	家族面会時にはできるだけ声をかけ、意見や要望を聞ける関係作りをしています。それらの意見は申し送りノートを活用し、職員に周知できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議時等に職員の現状改善意見を出し合い、問題解決改善を行い反映させている。会議に参加できない時は各自のレターBOXを活用し徹底するようにしている。	会議に出席できない職員にも事前に意見を出してもらうようにし、全員の意見が聞けるよう工夫しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年二回実施し、契約更改時話し合える場を設けている。役割担当等責任感を持たせる事により、意識向上、やりがいを持たせるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりに必要と思われる研修に参加してもらっている。さまざまな研修の案内を事務所に掲示し参加を促している。スキルに合った指導の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った同業者と情報交換を行っており、サービスの質の向上に反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族様に事前見学していただいたり、本人に直接会う機会を作り、心身の状態や思いを聞き、上体に把握に努めるとともに不安を取り除き、安心してもらえるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が相談しやすい雰囲気作りを心掛け、なんでも相談していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には聞き取りを行い、状況把握に努め、必要と思われる環境を整える工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを持ち、本人の得意なこと・趣味等を行って頂けるよう支援し、色んなことを教えてもらえる様な場面を設定している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所持には必ず本人の様子を報告し行事等を伝え、共に参加してもらいご家族の時間を大切に継続して頂けるよう計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人等来所時にはソファや自室にてゆっくり過ごして頂けるよう努めている。可能な方はご家族と外出されることもあります。	地元の入居者も多く、家族と食事や銭湯に出かけたり、家に帰られる方もおり、馴染みの人や場所との関係継続ができるよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や言動には十分注意を払い、トラブルを未然に防ぐよう努めている。スタッフが間に入り気分転換を図るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族様は度々訪問くださったり、電話で現状をうかがうなど関係性を維持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を増やせるよう工夫しており、日々の会話より希望や意向を把握するよう努めている。	コミュニケーションの困難な入居者に対しても、たまに発せられる単語や表情に注意、観察し、意向の把握ができるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め情報をスタッフが共有し、出来る限り今までの暮らし方を変えないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの観察力を高め、入居者一人ひとりの残存能力を見極め、出来ることはしていただき現状維持できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングで情報収集し、家族や本人の思いなど参考に介護計画に反映させるように取り組んでいます。	日々の会話の中で、入居者が「ええな。」と言われたことに着目したり、面会時に家族に意見を求めたりしながら現状に即した介護計画となるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察力の向上と、簡潔にわかりやすく文章にする能力を養う必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じ、職員・看護師・医師との連携を図り柔軟な対応を図ることに努めている。病院受診、買い物支援等も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で得た情報等により、地域行事に参加している。又、地域のボランティアの活用により、リフレッシュしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やその専門医との連携を図り、個々にあった適切な医療を受けられるよう支援し、急な受診等あった場合はスタッフが受診に付き添っている。定期的な往診で一人ひとりの健康管理と医療支援を行っています。	かかりつけ医とも協力関係が築けており、月一回の往診と、二週に一度の往診で体調管理に努めています。普段と違う様子があればすぐに医師に連絡し、往診に来てもらうなど適切な処置が受けられる様支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの看護師に緊急時24時間連絡できる体制を整えている。介護職は日々のケアを通じ状態の変化、異常を発見できる力を養い、看護師から適切なアドバイスをもらうよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行くことにより、入院先の医師や看護師から状態を把握している。頂いた情報はスタッフ間で共有し状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りについて家族に説明し、了解を得ながら今後もさらに終末期のあり方について、全スタッフで方針の共有と支援について理解を深めていくよう取り組んでいます。	状態の変化があればすぐに家族や医師と連携を図り、支援に取り組んでいます(先日施設で看取りを希望された方が子供さんや孫やひ孫などたくさんの家族とともに看取りが行われました)。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護経験の長いスタッフが多く、看護師がいる為勉強会時、実践に役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定し年二回避難訓練を実施している。又、運営推進会議において地域の方への協力要請を行っている。	入居者も一緒に年二回災害訓練を実施しています。前回も火災の想定で駐車場まで避難する訓練を行い、近くに住んでいる入居者の家族にも、災害時に協力してもらえるよう声かけしています。	車いすを使用されている2階の入居者の避難方法の検討、消防や地域住民の協力などよりわかりやすいマニュアルを作成し入居者、職員が安全に避難できる体制を整えられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、排泄時のプライバシーを損ねないように声掛けをし、支援を心掛けています。	例えば、「私と一緒に来てください」等、入居者それぞれに合った言葉かけを見つけ、個々に沿った対応に心掛けプライバシーに配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の意見や意思をだしやすい環境や関係作りに努めている。意思表示できない方は本人の表情を観察しながら、ご本人の希望を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調、心理の変化に目を配り、柔軟な体制で支援している。コミュニケーションを日頃より密にとり、本人の希望を伝えやすいような関係作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に更衣時は服を選んでいただいている。定期的な訪問理容を取り入れて毛染め、パーマ等ご本人の意思を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けし、出来る方には下ごしらえ等準備を手伝って頂いたり、希望されれば片付けも手伝っていただいている。施設の畑で採れた野菜で献立を一緒に考えたりしている。	家庭菜園でできた食材で、「何を作ろうか」入居者と一緒に考えたり「手伝おうか」と言う入居者に出来る事をお願いし、一緒に食事準備をしながら楽しい食事が出来る様支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量、水分量を記入し不足時にその都度状況に合わせ必要量摂取できるよう、職員間で共有し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表に記入し、実施し忘れの無いようにしている。毎食後義歯洗浄、うがいの声掛け、介助を行っている。毎日就寝前にポリドントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、個々の排泄パターンを把握し、タイミングをみて排泄支援を行い、失禁の減少を図りトイレでの排泄を促している。	トイレに行くのを嫌がる入居者もあり、タイミングや、言葉かけを工夫しながら衛生面への気配りと、自立への支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳摂取、バランスのよい食事を提供している。日々の運動、体操、散歩等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ一人ひとりのニーズに沿う計画を立てている。時間帯についても意見の尊重に努めている。	週二回は入浴してもらえるよう、入浴拒否の方にも時間帯や日にちなどを変えて対応し（失禁等あればその都度シャワー浴を行うなどの対応）、個々に合わせた入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については個々の意見を尊重している。夜間帯、不眠時は温かい飲み物を提供したり、職員と過ごしたり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情報をファイルし、すぐ確認できるようにし、理解を深めよう努めている。薬が変更になった場合は状態を記録し医師へ状態報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中から、その方の趣味や得意なこと等の把握に努め、個々の力を発揮出来るような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等により気分転換を図っている。四季にあった外出計画を立てて実施している。ご家族様来所時に一緒に外出される方もいる。	花見や紅葉狩り、初詣などの遠出の他、事業者近くに咲いている桜を見に散歩したり、庭での家庭菜園など日常的な外出の支援がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る入居者様は、ご家族様の協力も含め所持している。外出時等買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用できるようにしている。希望により携帯電話を居室にもたれている方もいる。ご家族様からの手紙の受け渡しもおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りや置物等工夫している。照明は時々に応じた明るさ、自然光を取り入れる等工夫している。ホールから見える所に季節の花や野菜を植えて、季節感を味わって頂いている。	お雛様や桜の飾りつけなどの装飾で目でも季節を感じられるよう工夫されています。リビングは日当たりがよく、暖かな雰囲気の中のんびりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の良い関係が保てるような席次等の工夫、配慮に努めている。横になって過ごせる畳コーナーや、一人でゆったり過ごせるソファも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた家具、写真、本等を持参して頂き、ご本人の馴染みのあるものを配置することにより、居心地のいい環境づくりに努めている。	仏壇やタンス、テレビなどの使い慣れた物を持ち込み、家族写真や作品を飾り、それぞれに過ごしやすい居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表示を行い、状態に合わせて声掛けや誘導を行い混乱を防ぐよう工夫している。居室に目印となるものを付けている方もいる。		